

金曜コラム - 離巢

金ジェリョン(ファクション高校教師)

●金曜イントロ

「暑くてさらに、と〜っても暑い日々が続きます。毎日歴代最高気温を塗り替える蒸し暑さ。毎週金曜日の朝に皆さんに届く<金曜>がスポーツ界の涼しげなニュースを伝えてくれる通路になったらと思います。今週の金曜コラムは「名誉退職放棄」体育教師、金ジェリョン先生の文章です。離巢というタイトルが聞きなれないので尋ねたところ「鳥が初めて巣を離れること」とおっしゃいました。先生の文章は、初めて体育教師になろうとする新米教師に向けたものなのか、それとも来年の今頃ぐらいに退任教師の道を残している自分自身に向けたものなのか、計ることは困難です。ヒメジョオン詩人金ジェリョン先生の文章は、おぼろげな何かを夢見る力があります。離巢はタイトルにそのときめきが含まれています。」

(訳注：名誉退職とは早期退職のこと)

強烈な猛暑が炸裂する夏の日を過ごす。25日間の夏休みをとったが、学校についている官舎で熱に耐え、教務室で私がページをめくったり、何か書いて思いめぐらしたりする日々である。一年後、夏が終わって秋が始まる9月の最初の日が来れば、定年以降の残りの日々が始まる。実はセウォル号惨事以降、名誉退職が受け入れられなくて「名ボ(訳注：意味不明)教師」として生きている。定年を控えて教育労働者として生きてきたことを反芻したり、残りの日々をどのように生きるかを考えてみるもするだろう。

去る7月12日、全国の体育教師五人が一堂に集まった。「2018全国体育教師祝典」と名付けたのだが、1泊2日の間、広域教育庁別に中等体育教師が集まって交流をしたのである。講師陣とかプログラム自体は、全国体育教師会の枠組みをそのまま持ってきて、企画者と参加者が長年の知人だったので喜んで参加することにした。しかし気まずさは消すことができなかった。今でも体育教育や中等体育教師を自律的で独立した主体として位置させるよりは、国家機関が出て教師を動員するという気がしたからである。教育部の担当者といくつかの広域教育庁の体育課奨学官・奨学官ら多数も顔を出したことはもちろんだ。

「祝う意味で行なう儀式や行事」を意味する「祝典」という名称に違和感があった。体育教師が一体何を祝ったり、お祝いを受けなければならないか不思議だった。他の教科の教師が祝祭を行ったり、祝典を開くのを聞いたこともない。いくら真正性と善意で作られたとしても官製のイベントに体育教師は動員されただけである。学校教育の場面で体育は、他の教科教育と一つも変わらない。特別なこともない。国語・社会・科学・英語・数学・美術音楽教科と同じように教育課程に忠実に、「どうすれば体育の授業をよくすることができるか？」を常に心配している教師にすぎない。「今なにが大切なの！」体育教師が「祝典」に参加しなければならないの？

学校現場は数え切れないほど様々な研修にあふれている。教員評価が本格的に導入された後の風景だ。教師ごとに45時間以上のオンライン・オフラインの研修を履修しなければならない。評価指標になったりもして差等支給される成果賞与金に影響を与えるので、当然教師が研修を受けるしかない。教科教育を中心とする研修の内容を見ると、「楽しい」、「上手」、「統合・融合」、「力の強化」、「STEAM」「授業分かち合い」などの用語が登場し、「革新」を強調している。いわば「誰が良くやっているか」発表大会のような風景がく

り広げられるのだ。「全国体育教師祝典」の姿もあまり変わらなかった。毎時間ほとんど体育を担当する教師の誇りと自負心を鼓舞しながら、子どもたちのためにもっと熱心に、責務あふれる授業を組み、授業日誌を書かなければいけない等の発表が行われた。

しかし私は、ほとんどの発表と講義内容のほとんどが学校現場での体育教師を、アベンジャース（訳注：avengers だと復習者だが... 意味不明）になるべきだと責めるのを聞いた。新米教師といってもすでに無数の鍛錬と検証を経て現場に投入された。中堅教師はもちろん、私のような元老教師は皆、学校が休みになれば資格研修や各種職務研修を経て、子供たちと一緒に成長してきた。すべての教師が絶えず自己啓発のために、それなりに努力しているということは疑いの余地はない。今の教師たちにはもっと「熱心にしなさい」、「責務を持て」、「誇りを持て」などの誠実さを強要し教えようとする事をしないでほしい。

老若男女、地位の上下を問わず、すべての人は自分自身が行うことができ、好きな「仕事」をする存在だ。そして、その「仕事」を通じて独立主体として自分自身をまっすぐ立てていくのである。教師の人生は教師自身が自分だけの「仕事」として「教師レベルの教育課程」を発現していく過程でもある。「全国体育教師祝典」に参加することにしたのは、定年を控えた「体育教師の感想」を聞かせてくれと言われたからだった。猛暑の中でやるせない話をつぶやいたかも知れない。「詩人や博士という名前に頼らず、体育教師として生きてきたのが一番よかったと思っています。残っている日々、子どもたちを愛します。」恐怖はない。あらかじめ私に別れのあいさつをする。体育教師よさようなら。

離巢//とてもか弱い羽ばたきをしなくても何をしなくても/虚空をきって/墜落たりもしていたのに/初めて飛び立つんだ//初めてだ/まだあまりにも下手だ//遅くなってしまったけれど/ついに一つの生を/眩しく向き合うのだ/きょろきょろして怖いだらうな//完全な空に/直面できるでしょね//行き場を知らない/降りるところも知らないんだね//涙は?//どうかなあ

*2009 国会憲政記念館「学園スポーツの政策の人権に配慮した転換方案」「スポーツは飛び立つ」収録作品。

01 韓国日報 2018.7.29 【 ”囲碁ト”の導入に重心を置くのか 】

囲碁スポーツくじの「囲碁ト」の導入議論が再開された。危機に瀕している国内囲碁界に新たな突破口が必要であるという「賛成」側の意見が、賭博性の議論から自由ではないという「反対」側の主張よりも力を得ている模様です。

27 日、囲碁界によると韓国プロ棋士会と韓国棋院は事実上囲碁ト導入に「賛成」する方針を固めて今後の作業に乗り出す計画です。

ソン・グンギ (31) 韓国プロ棋士会会長は、「囲碁ト導入問題をめぐって、最近のプロ棋士を相手に意見を尋ねたところ、63.1%が賛成票を投じた」とし「圧倒的な支持を得ていると見るのは難しいが、囲碁ト推進に大きな問題はないと思う」と言いました。

囲碁トはチョ・フンヒョン自由韓国党議員側から推進の意思を明らかにされて公論化し、去る 12 日に韓国棋院でこれに関連する公聴会が開かれました。この日の公聴会で、囲碁ト導入賛成側は囲碁普及と雇用創出、幼少年とアマ・プロ囲碁の活性化基金調達などを理由に必要性を強調しました。囲碁トが実行され

る場合、売上高総額の一定部分は韓国棋院に支援金として戻ります。これに対して反対側は、他のスポーツ種目でも生じた勝負操作の危険性、試合結果に応じたファンの行き過ぎた非難で巻き込まれるプロ棋士の競技力の低下、不法なインターネットの賭けサイト開設などの副作用に言及し否定的な意思を示しました。囲碁トト導入論議は7年前の2011年にも浮上したことがあります。当時の棋士総会で囲碁トト導入するかどうかをめぐり行われた賛否投票で65.6%が賛成したが、一部の反対側の棋士の強力な反発と他の種目で勝負操作などが起き、白紙化されました。

囲碁トト賛成側では、現在の囲碁界内外の状況を考えるとトト導入が転換点になりうるという診断を出しています。何よりも囲碁界の内部事情が簡単ではありません。まずプロ棋士の最大の念願である国内の総合棋戦が手に数えられるほどに減ったうえ、「ミートゥー」事件まで浮き彫りになり、囲碁界全体が大きく萎縮した状態です。囲碁愛好家として知られているムン・ジェイン大統領をはじめ、「共に民主党」代表選挙戦に出た7選のイ・ヘチャン議員、囲碁トト推進カードを取り出したチョ議員など親囲碁界政界関係者からの追い風を期待できるという点では励みになります。プロ棋士会側が今回の機会を生かそうという意志をのぞかせたことも、このような内外の環境を考慮したように見えます。ソン会長は「囲碁棋士の衆知がある程度確認されただけに、囲碁トトは可能な限り貫徹させるようにする」と強調しました。韓国棋院も囲碁トト導入に好意的な雰囲気です。ユ・チャンヒョク韓国棋院事務総長は「いろいろな意見を集めて聞き、最終的な決定は秋に開かれる理事会で下される」としながらも「個人的には囲碁トト導入で得られる利点が欠点より多いと思う」と言いました。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=469&aid=0000318151>

02 スポーツソウル 2018.7.31

【 ソロモンの知恵が必要な旌善アルペンスキー場 】

矛盾した二つの価値が衝突したときに判断の根拠は何でなければならないか？ まずは、様々な利害関係者からそれぞれの立場を聞き、大きな枠組みで合意点を導き出すのが最も賢明な方法ではないかと思います。2018 平昌冬季オリンピックが成功裏に幕を下ろした中で、競技場の事後活用案は未だ難題です。特に環境問題と直結した旌善（ジョンソン）アルペン競技場は存置と復元という矛盾した立場が互角に対抗して「ソロモンの知恵」が切実な状況です。

存置を主張する方は旌善郡民をはじめ、スポーツ界など多数です。2000 億ウォンをかけて作った「名品スキー場」を代表的な観光商品として育てて地域経済に恩恵をもたらすようにしようというのが大多数の旌善郡民たちの主張です。スポーツ界も存置のために両腕をかけた。旌善アルペン競技場がオリンピックレガシー（legacy）の価値が大きいだけでなく、アジアのスキーのハブ（hub）に位置づけられるというのが、彼らの論理です。これまで韓国のスキーは、国際的な規模の滑空競技場がなく、アルペンスキーでスピード競技を事実上放棄し、技術競技にのみ注力する奇形的な姿を見せました。旌善アルペン競技場を活かしたならば韓国のスキーの均衡的な発展も十分に可能であるというのが、スキー界の共通した見解です。

当初、旌善アルペン競技場はオリンピックを終えた後、復元することになっていました。オリンピック誘致当時、環境にやさしいスタジアム建設という時代の流れに合わせてビディングファイルにそう明記しました。ビディングファイルに約束した旌善アルペン競技場の復元を主張する側は、山林庁と環境団体などです。推

測するに、これらの復元主張は慣性的な思考の枠組みに縛られた自分たちの特別な状況から始まったものです。事実、旌善アルペン競技場は工事から予定された道に従いませんでした。ビデオファイルに基づいて復元を念頭に置いた場合、今のような工事をしてはいけませんでした。旌善アルペン競技場は存置のための工事であって、復元を念頭に置いた工事では決してなかったことがあちこちで見受けられます。環境専門家たちでさえ旌善アルペン競技場の復元について、「今の生態復元を試みてみなければ原状回復は難しいだろう」と言うほどです。生態復元は、最初から洗練されたロードマップを組んでも成功を保証することができない高度の作業です。莫大な予算を投入しても、生態復元を正しくできなかった事例もあります。まさに 1972 札幌冬季オリンピック恵庭山滑降コースと 1997 茂朱（ムジュ）冬季ユニバーシアード徳裕山滑降コースが代表的です。

二つの価値が衝突する場合に最も円満な解決方法は接点を見つけることです。旌善アルペンスタジアム存置と復元の接点を見つける方法は意外に簡単です。一方は経済と体育の価値を主張しており、もう一方は環境の価値を前面に出しているのが今の状況です。さて次に、少数派である環境の価値を打ち出している方を説得してみましょう。競技場はそのまま存置させるが競技場と調和するように周辺の生態系をより豊かに育てるのはどうか。これがまさにこの問題を解くことができる「ソロモンの知恵」です。

競技場を生かすと言ってもすべての問題が解決されるわけではありません。むしろ越えるべき大きな山が立ちはだかっています。莫大な国家財源が投与された公共資産をどのように収益モデルにつなげるかという問題です。やっとな競技場を生かしても、それがお金を食べる「白い象」になってしまったら失敗です。多くのお金が投資されたスキー場であるだけに、収益のためには民間委託方式が相応しいのではないかと思います。現在では自治体競技団体、民間企業などが参加する特別目的法人（SPC）の委託経営が最も合理的なモデルに挙げられています。

約束は守るのが良いですが、むやみに名分だけ執着するのも望ましくありません。公共の利益を考慮すべき事案ではさらにそうです。良い道を新たに発見しても頑固に古い道を選んで歩くなら、それほど愚かなことはありません。存置と復元の分かれ目では旌善アルペン競技場の運命を議論する際に必ずしたいアドバイスです。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=468&aid=0000411156>

03 KBS ニュース 2018.8.2 【 この猛暑でも走る学生選手たち...健康・安全の脅威 】

[アンカー]

猛暑警報が発効された今日、日中炎天下に外を走らなければならない人々がいます。

まさに学生選手たちです。猛暑の具体的な対策が事実上なく、学生の健康と安全が脅かされています。

金キボム記者が取材しました。

[レポート]

午後 1 時、テニスコートの地熱が 45 度に迫る中、選手たちが試合をします。

汗を雨が降るように流し暑すぎて大変なあまり、氷水筒でぐいぐい水を飲んでいきます。

【金トンジュ/テニス有望株：「暑くて体力的に大変で、多くの選手が足がつり...正直暑すぎて試合したくな

いくらでした」 】

あげくの果てに激しい脱水現象で床に倒れ、めまいを感じて棄権する選手も出ました。

【棄権した選手：「頭に熱をあまりに受けて暑気あたりになったようで、試合に支障がありました」 】
室内コートがすぐ隣にあっても主催者は使用に消極的です。

ご覧のようにこんなに室内コートはガラガラ空ですが、選手たちは最も熱い午後に屋外で試合をしています。
エアコンが無いえ、選手が屋外競技を好むというが、安全は後回しにされたわけです。

二日続きの殺人的な猛暑の中でも相変わらずいくつかの一部学生選手権大会は猛暑対策の死角地帯です。

大韓体育会は 33 度以上の猛暑が二日以上続く場合は大会日程調整を推奨していますが、具体的な対策は事実上ありません。

何よりも、学生選手たちの学習権保障のために夏休みに多くの大会が開催されるだけに、体育会と文体部レベルの猛暑の、より具体的かつ強制できる対策が急がれます。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=056&aid=0010605475>

111 年ぶりに最高記録を塗り替えた夏の猛暑の勢いがすごいです。

心と体を疲れさせる暑さにも健康管理を良くなさり、立秋過ぎの末伏を迎える涼しい秋の風を想像してみてください。幸せな週末をお過ごしください。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305 号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305 호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fgep@jarl.com